

文部科学省「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業」選定

令和5年度

埼玉・群馬未来医療人育成シンポジウム

# 抄録集

総合的に患者・生活者をみる  
— 地域・人生・プライマリ・ケア —



日時：令和6年**2月29日** (木) **13:30～16:00**

会場：レイボックホール 7階小ホール (市民会館おおみや)

# 令和5年度 埼玉・群馬未来医療人育成シンポジウム

テーマ : 総合的に患者・生活者をみる ー地域・人生・プライマリ・ケアー

日時 : 令和6年2月29日(木) 13:30～16:00(予定)

会場 : レイボックホール 7階小ホール (市民会館おおみや)

※ウェビナー使用ハイブリッド型式開催

## 《次第》

開会挨拶 : 埼玉医科大学 学長 竹内 勤

### 第1部 特別講演

座長 : 埼玉医科大学 医学部長 森 茂久

講師 : 筑波大学 地域医療教育学  
教授 前野 哲博 氏 (筑波大学附属病院 副病院長・総合診療科長)

演題 : 地域医療で活躍する総合診療医の育成…………… P4

< 休 憩 >

### 第2部 未来医療人の育成プログラム紹介

埼玉医科大学・群馬大学 参加学生及び教員によるプログラム振り返り

座長 : 群馬大学大学院医学系研究科教授 (医学教育開発学分野) 岸 美紀子

1. はじめて学ぶ地域医療 ー 両大学学生の合同授業 ー  
群馬大学大学院医学系研究科教授 (総合医療学分野) 小和瀬 桂子  
埼玉医科大学医学部医学教育学 教授 柴崎 智美 …… P5

2. 感染症総合診療内科演習  
埼玉医科大学病院臨床検査医学 教授 前田 卓哉 …………… P6

3. 教育プログラムの成果と現状「利根川プログラム」  
埼玉医科大学医学部総合診療内科学 教授 林 健  
群馬大学医学部附属病院地域医療研究・教育センター講師 羽鳥 麗子…P7

閉会の挨拶 : 群馬大学 学長 石崎 泰樹

## ごあいさつ 始動から挑戦へ

事業推進代表者  
埼玉医科大学 学長 竹内 勤



令和4年、文部科学省「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業」に採択された「埼玉・群馬の健康と医療を支える未来医療人の育成」事業の重要なイベントであります第2回となる「令和5年度埼玉・群馬未来医療人育成シンポジウム」が開催されます。今回は事業が本格的に始動してから初めてとなるシンポジウムです。その経験を踏まえたこのシンポジウムは、成果、課題、今後に向けた展望などを示していただく絶好の機会です。多くの両県関係の皆様、医療関係者、医学教育関係者、そして若手医師から高校生を含む将来医療人を目指す若者に本事業について、まず、その現状を知っていただきたいと考えています。

第1部では、地域医療教育体制の構築や総合診療医養成のための教育コンテンツ作成の第一人者である筑波大学地域医療教育学教授で、日本プライマリ・ケア連合学会副理事長でもある前野哲博教授をお招きして、地域医療教育のプログラム構築や総合診療医の育成についてご講演いただきます。本事業のプログラムを実施するにあたって様々なコンテンツ作成や技術的アドバイスを頂戴しております。地域医学教育を進めるにあたっての課題とその解決策など、重要で示唆に富む御提言をいただけるものと、確信しております。

第2部では、「埼玉と群馬の健康と医療を支える未来医療人の育成」のプログラムを紹介いただきます。埼玉医科大学と群馬大学の学生と教員によって、令和5年4月から開講された教育プログラムを具体的にわかりやすく解説していただく企画です。両大学とも1学年を対象として共同開講した『はじめて学ぶ地域医療』、埼玉医科大学で5年生を対象とした『感染症総合診療内科演習』、両大学の全学年を対象とした『利根川プログラム』の実施状況も交え、現場からのフィードバックや今後の課題などを熱く語っていただきたいと思えます。

本シンポジウムを埼玉・群馬の未来の地域医療、地域医療教育について、皆様とともに考え、語り継げる場として継続して行きたいと考えますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。



## ごあいさつ 連携2年目を迎えて新たな発展を！

群馬大学医学系研究科副研究科長  
小山 徹也



埼玉・群馬の健康と医療を支える未来医療人の育成事業が2023年に始動し、順調に新年を迎えました。本事業では、埼玉医科大学を主体として、埼玉県・群馬県及び両県医師会の協力を得て、少子高齢化がますます深刻化する2030～40年に向けた新しい医療体制の構築を目指していきます。特に、医師偏在・診療科偏在が大きな問題となっている埼玉県・群馬県の県境地域（熊谷、深谷、本庄、藤岡、太田、館林など）における医療需給の課題に取り組むため、群馬大学の担当する2つの教育プログラム「はじめて学ぶ地域医療（教養教育科目）」、「県境地域から学ぶ地域医療集中演習（利根川プログラム）（専門教育科目）」とも、一年の経験での知見を得て新たな発展が望めます。

教育プログラムを履修した学生の振り返りアンケートでは、自らの地域の医療の実態を身近に経験ができたことや、必ずしも将来医師にならない人との交流を通して、新たな発見ができたという感想が多く、おおむね評判は良好でした。一方、必修科目でないこともあり、参加人数がやや少ない点などは、両大学の地域枠制度の学生に対する必修化が望めます。また、将来医師を目指す高校生に対して、継続的に地域医療や本事業の概要を発信していくなど、新たな活動を模索しています。今回のシンポジウムでも、両大学の活動実績や取り組みについて興味深いお話が聞けると楽しみにしています。今後とも、本事業へのご協力とご理解を頂きますよう、よろしくお願い申し上げます。

## ごあいさつ 第2回埼玉・群馬未来医療人育成 シンポジウムの開催に向けて

事業推進責任者  
埼玉医科大学 医学部長 森 茂久



能登半島地震で被災された方々にお見舞い申し上げます。皆様の安全と1日も早い復興をお祈りいたしております。特に被災地域で活動されている医療関係者の方々は教育を行う余裕が無い状況もあるかと推察いたします。何かお困りのことがあれば、お手伝いさせていただきたいと存じます。

さて令和4年度に文部科学省「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業」に採択された「埼玉・群馬の健康と医療を支える未来医療人の育成」事業の重要なイベントである「埼玉・群馬未来医療人育成シンポジウム」が開催されます。今回は事業2年目のシンポジウムであり、本格的にスタートした事業の様子を紹介する大きな意味があります。両県の関係者、医療関係者、医学教育関係者、そして高校生を含む将来医療人を目指す若い皆様、多くの方々に本事業を内容を知っていただきたいと考えています。

第1部では、地域医療教育の国内第一人者である筑波大学 地域医療教育学所属で、附属病院 副院長・総合診療科長の前野 哲博 教授をお招きして、地域医療と総合診療医についてご講演いただきます。前野教授は「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業」の中心的役割を果たされており、これまでも様々なご指導をいただき、お世話になっています。本事業を推進する上で貴重なお話をお聞かせいただけることと存じます。

第2部では、本事業で企画された5つのプログラムの中から、大きな第一歩を踏み出した興味深い教育内容について教員と学生から紹介させていただきます。短い時間ではありますが、「埼玉・群馬の健康と医療を支える未来医療人の育成」事業が生み出し始めた教育効果をご確認いただければ有り難く存じます。

## 第1部 特別講演

< 演題 > 地域医療で活躍する総合診療医の育成

< 講師 > 筑波大学 地域医療教育学

前野 哲博 教授（筑波大学附属病院 副病院長・総合診療科長）



### < 略歴 >

1991年 筑波大学医学専門学群卒業、河北総合病院内科研修医

1994年 筑波大学附属病院総合医コースレジデント

1998年 筑波メディカルセンター病院総合診療科

2000年 筑波大学附属病院 卒後臨床研修部講師

2003年 同 助教授

2009年 同 地域医療教育学教授

現在、日本プライマリ・ケア連合学会 副理事長、家庭医療専門医、総合内科専門医

### < 講演要旨 >

2018年に総合診療専門医制度が導入され、その中で養成する医師像と研修目標が示されたことにより、我が国における総合診療医の位置づけが明確化された。しかしながら、制度が始まって日が浅いこともあり、その存在はまだ十分に知られていないのが現状である。そこで本講演では、まず総合診療医の位置づけや専門性、キャリアパスについて概説する。また、総合診療医には地域包括ケアの充実や医師偏在の解消など、地域医療の抱える課題解決への貢献が求められているが、その背景や活躍が期待される将来像についても述べる。

次に、総合診療医の育成について取り上げる。総合診療医は、地域医療を支える担い手として期待される一方、その育成は十分に進んでいるとは言えない。今後、社会の要請に応えられる総合診療医を数多く輩出するために、大学の果たすべき役割は大きい。その実現のためには、大学と地域が一体となって、充実した教育体制を構築することが極めて重要である。そこで今回は、大学-地域のネットワーク構築および教育プログラムのコーディネート、キャリアパスの形成等の具体的な進め方について、実際の事例を交えて紹介する。

## 第2部 未来医療人の育成プログラム紹介

埼玉医科大学・群馬大学 参加学生及び教員によるプログラム振り返り

### 1. はじめて学ぶ地域医療 — 両大学学生の合同授業 —

群馬大学大学院医学系研究科総合医療学 小和瀬 桂子  
埼玉医科大学医学部医学教育学 柴崎 智美

群馬大学と埼玉医科大学の1年生が、Zoomを用いて合同で同じ講義を受講する教育プログラムを共同開発、共同開講した。群馬大学は1年生の教養科目として、医学科のみならず、保健学科、理工学部、共同教育学部、情報学部の学生合計66名が選択して開講した(90分15講)。講義は実務経験のある教員によるもので実践的な内容を多くしたほか、グループ討議も多様性を考慮したグループ分けとした。埼玉医科大学は、1年生良医への道コース地域医療とチーム医療ユニットの中で1年生139名が参加した(65分26講)。群馬大学と埼玉医科大学の講義時間の違いや開講時間の違いは、群馬大学1コマに対して、埼玉医科大学が2コマ準備することで共同開講が可能となった。

両プログラムは、教育目標の一部を同じ(「少子高齢化や医療費増大、人口減少社会を迎える地域社会・医療の課題を解決するために必要な基本的な知識、技能、態度、価値観を身につけることを通して、将来地域・社会で役に立つ医師になるための素養を育む。’)とし、合同授業として、群馬大学教員の講義を1回、埼玉医科大学教員の講義を1回、群馬大学・埼玉医科大学のグループワーク報告を各1回ずつ、合計4回行った。群馬大学の「はじめて学ぶ地域医療」では、授業時間内で6~7人が1グループに分かれて、群馬県の二次医療圏の特徴を調査した。埼玉医科大学では、本事業の教育プログラム3で地域枠ならびに地域医療に関心のある学生が選択必修として履修した演習のなかでコミュニティアズパートナーモデルを用いて、埼玉県の二次医療圏の中の市町村について調査した。Zoomを用いて両大学の結果をそれぞれ発表し、質疑応答を行った。開始前後にMentimeterを用いて両県のイメージを共有した。

群馬大学の学生は、毎回のミニレポートで好意的な意見が多く、自分とは異なる視点を学べたという意見が多かった。また、事後アンケートにより、「合同講義や発表を行う事により、群馬県や埼玉県により興味関心を持つことができた」という意見が9割以上を占めた。両県のイメージは、合同授業終了後には、医師不足、少子高齢化の2つの言葉を記入する学生が増えていた。埼玉・群馬の距離を超えて、両大学で合同授業を行い、一部ではあるが双方向性のやりとりを行い、お互いに刺激し合うことができた。

シンポジウムでは、両大学の学生が学びを報告する。



講義：未来を語ろう！



地域診断：グループワーク



地域診断：グループ発表



埼玉医大との合同講義

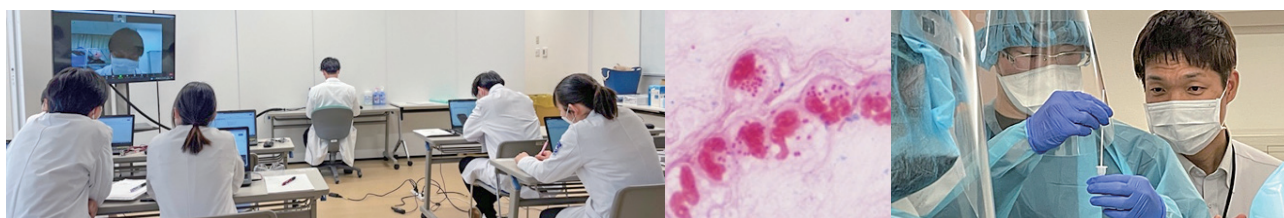
## 2. 感染症総合診療内科演習

埼玉医科大学病院 臨床検査医学 教授 前田 卓哉

感染症をキーワードとし、「遠隔診療」と「カルテの記載」そして「患者さんから採取した検体の観察」をテーマとしたシナリオ・ベースの演習プログラムです。ここでは、総合診療内科と臨床検査医学の教員がそれぞれ進行役となり、独自の患者シナリオと学習教材を使用しながら、外来さながらの「模擬診察」を行います。

- ① 1名の学生がWebで繋がる診察室の患者役となり、医師役学生がコンピュータを通じて医療面接を行います。聞き出した情報をその場で整理し、さまざまな角度から臨床推論を行います。鑑別診断に必要な情報が他にはないか全員で議論し、医師役学生が追加の聴取を行い、診断に迫ります。
- ② 医療面接のあと、必要な感染対策を考慮しながら、身体診察、画像検査、検体検査、そして病原体検査へと、病気の本質にせまる「検査とその手順」を具体的に考えます。感染症診療では、臨床推論の段階で具体的な病原体名までを想起できるかどうか、正しい診断を行うための鍵となります。
- ③ 病原体検査のなかでも、特に喀痰検査に重点をおいて議論を深めます。特に、正しい結果の解釈には、良質な検体が採取できたかどうかを事前に評価することが重要です。本演習では、喀痰などの実際の検体を供覧するほか、デジタル・スライドを駆使し、観察に適した標本を選別し、病原体を推定するトレーニングを行います。
- ④ 最後は電子カルテへの記載法を学びます。「SOAP方式」のカルテ記載は、医療情報を体系立てて記載できる方法の一つです。聞き出した情報と得られたデータを整理し、論理的なアセスメントと合理的なケア・プランを立てることを学びます。

感染症診断にどこまで迫ることができたのか。これまでの指導の成果と問題点、学生の実際の反響について、ご報告いたします。



コンピュータを通じた医療面接

検体の採取と評価の実習

### 3. 教育プログラムの成果と現状「利根川プログラム」

埼玉医科大学医学部総合診療内科学 教授 林 健  
群馬大学医学部附属病院地域医療研究・教育センター講師 羽鳥 麗子

将来の地域医療を支える医学生が、実際に地域医療を支えている医療現場を知る。当たり前のように、必ずしも十分ではないのが今の多くの医学生の実状だと思います。医学教育は大学を中心に行われるものですし、地域医療機関が学生教育に充てられる人的時間的資源も限られています。そのようななか、地域医療教育の大切さは十分認識され、埼玉医科大学でも群馬大学でも、第一線の医療機関の見学や実習を前々から行ってきていました。ただ、それぞれが別々に行っており、両大学が一緒になっての地域医療教育は本事業を通じてが初めてのものでした。

利根川プログラムは、両大学の地域枠医学生と一緒に両県の地域医療機関を見学するものです。これは、たまたま隣県の医学部学生と一緒に地域医療を学修するという以上の意義があるものと思います。利根川兩岸地域は、県境を跨いで一つの医療圏を（そして文化圏も）つくっています。そのため、利根川左岸の群馬県東毛地域と右岸の埼玉県北部は多くの医療課題を共有しています。将来両県の地域医療を担う両大学の地域枠医学生には、利根川兩岸から、将来にわたって協働することが期待されます。利根川を跨ぐ医療圏で、両県の病院を、両大学の地域枠医学生と一緒に見学することは、とても意義深いことです。

令和5年度からの開始ですのでまだ十分な経験ではないのですが、心に残ったことがありました。それは、見学を受け入れて下さった両県医療機関の方々の熱意と医学生への期待です。先生方のみならず他メディカルスタッフの方々まで、本当に良くしていただきました。このことは医学生にはしっかりと心に刻んでおいて欲しいと思います。病院が、地域の住民が、本当に待っているのです。

課題もありました。隣接県とは言え両大学からは多少離れた地域であるため、移動時間がどうしても長くなってしまいました。ある程度は仕方ないことですが、両県病院の組み合わせ等を考慮していきたいと思います。また、両大学のカリキュラム、とくに夏休み時期の違いは日程確保のうえで難題となりました。このため、各大学の見学と両大学一緒の見学を織り交ぜて対応しましたが、令和6年度も可能な範囲では共同で行いたいと思います。

刀水橋と利根大関の間に新しい橋を架ける計画が令和5年に発表されました。両大学地域枠医学生が、さらに大きいもう1つの架け橋になることを期待しています。



埼玉県立循環器・呼吸器病センター



太田記念病院





<https://sgmirai.jp>

## 埼玉・群馬の健康と医療を支える未来医療人の育成

### ● 育成を目指す未来医療人像

- ◎ **地域への愛着と地域医療を担う資質・能力・マインドを持った医師**
- ◎ **小児科・産婦人科・救急医療・感染症科、総合診療・プライマリケアから高度・先端医療まで、これから必要となる臨床能力を身につけている医師**

### 埼玉・群馬県民の健康長寿の実現

地域医療（埼玉・群馬県境地域）を志す学生の質・量の向上

- アウトカム
- ・地域枠への入学希望者（地域枠選抜試験受験者数）の増加
  - ・卒業時アンケートにおける地域医療を志す学生の増加
  - ・産婦人科、小児科、救急科、総合診療科を専門研修で専攻する卒業生の延べ人数の増加
  - ・地域枠学生の医師不足地域（指定地域）医療機関での延べ勤務数

### ● 埼玉県・群馬県の共通の課題

- ・ 県境地域の医師不足
- ・ 県境地域における埼玉県から群馬県への患者流出
- ・ 急速な高齢化、診療科偏在

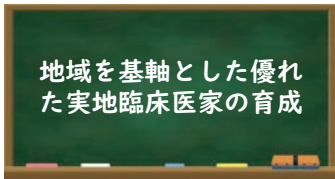
### ● 新しいカリキュラムの特徴

- ① **埼玉県・群馬県の理解を深める**
- ② **早期から学ぶ**
  - ・ 将来地域で求められる**がん医療・難病医療**  
**・ 遺伝医療**
  - ・ **総合診療・プライマリケア・地域医療実習**
- ③ **人の暮らしを支える**
- ④ **感染症による危機管理に対応する**

## カリキュラムマップ

	プログラム1 地域を軸とした優れた実地臨床医家の育成	プログラム2 ポストコロナ時代の地域感染症対応人材養成	プログラム3 地域への愛着を形成する埼玉県の地域医療	プログラム4 はじめて学ぶ地域医療	プログラム5 県境地域から学ぶ地域医療集中演習
	社会のニーズを的確に把握し、患者中心の医療を実践し、社会に貢献することを目指し、誇りを持って自己研鑽を続ける人材	ポストコロナ時代における新興・再興感染症に対応するマインドとスキルを持った医師	地域の課題を発見し、その課題解決に取り組むための技術を身につけ、埼玉県に対する愛着を持って地域医療に貢献する意欲を持った人材	地域における医療の実態と医療行政に関する知識を身につけ、医師不足地域の課題及びその解決方法について考えることができる人材	地域医療を通じて、社会貢献する向上心及び自身の専門性を地域に還元する意欲を有し、医師不足が深刻化している埼玉・群馬県境の医療情勢に精通するジュネラリスト（利根川プログラム）
対象	医学部医学科の全学生	医学部医学科の全学生	医学部医学科の地域枠学生と関心のある学生	医学部医学科生（地域医療枠学生及び地域医療に関心のある一般枠学生）、保健学科生（看護学、検査技術科学、理学療法、作業療法）、共同教育学部生、理工学部生、情報学部生	医学部医学科生（地域医療枠学生及び地域医療に関心のある一般枠学生）
6年	R6開始 CCstep3指定学外施設実習		R6開始 CCstep3特定地域指定学外施設実習		R5開始
5年	R6開始 CCstep1特別演習2	R6開始 CCstep1総合診療内科感染症実習		R4開始 課外学習プログラム：埼玉の医療	県境地域から学ぶ地域医療集中演習（利根川プログラム） 地域医療体験セミナー①群馬/敷目型地域医療体験セミナー②群馬/群馬県臨床研修病院等見学「バスターアープ」
4年	R5開始 地域医療とチーム医療4			R5開始 課外学習プログラム：利根川プログラム	
3年	R5開始 (R4試行) PreCC2-I	R6開始 地域医療とチーム医療3			
2年	R6開始 地域医療とチーム医療2		R5開始 選択必修：総合診療とプライマリケア		
1年	R5開始 地域医療とチーム医療1（群馬大学との合同実施）	R5開始 臨床推論1	R5開始 医学・医療学入門	R5開始 はじめて学ぶ地域医療	
	講義型 実習型 課外学習	講義型 実習型	講義型 実習型	講義型 課外学習	実習型 課外学習

# 教育プログラム1



3年生導入クリニカル・クラークシップI-I  
(医学部保健医療学部合同IPE)

1年生地域医療とチーム医療  
(映像を用いた演習)

**令和5年度  
医学部・保健医療学部  
合同IPE**  
~患者・利用者中心の安心安全医療を目指して~

日時:  
令和5年5月27日(土) 9:00~17:00  
令和5年6月10日(土) 9:00~17:00

場所:  
埼玉医科大学毛呂山キャンパス  
カクタスタワー  
2階実習室、3階実習室  
(5/27) 地下1階実習室  
(6/10) 7階コンシリウムホール

**IPE: Interprofessional Education  
専門職連携教育**  
両学部3年生全員約360人が、60チームに分かれて、医療安全、患者安全管理、そして質の高い暮らしの実現を目指した**患者・利用者中心の医療**を提供できるように連携・協働して取り組みます。

問い合わせ先: 医学部事務室(内線41-2020)  
保健医療学部事務室(内線41-2021)  
学務課(内線41-2022)  
保健医療学部保健安全課(内線41-2023)  
保健医療学部学生生活課(内線41-2024)  
保健医療学部国際交流課(内線41-2025)  
保健医療学部キャリアセンター(内線41-2026)  
保健医療学部学生相談室(内線41-2027)  
保健医療学部学生支援センター(内線41-2028)  
保健医療学部学生生活課(内線41-2029)  
保健医療学部学生生活課(内線41-2030)

ヒヤリハット事例のRCA



高齢者の暮らしを支える計画

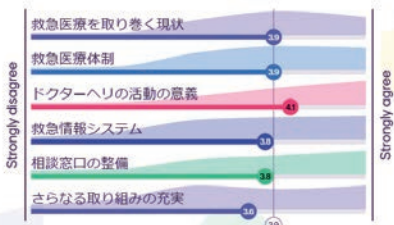


地域医療を理解する  
埼玉県の医療

周産期医療

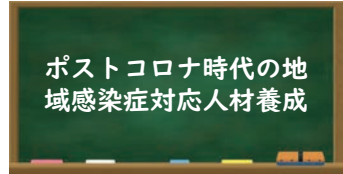


周産期医療・救急医療の理解



2023年5月2日Mentimeterで収集

# 教育プログラム2



4, 5年生クリニカル・クラークシップStepI  
(総合診療内科感染症実習)

1年生臨床推論  
(感染症のTBL: 動画視聴  
後グループワーク)

## 1) シナリオベースの感染症診療実習

総合診療内科CC-Step-I (火曜日午後[隔週]に実施)

□ 2つのシナリオをもとに遠隔診療/臨床推論/検体観察の実習

ただいま、3つ目のシナリオを作成中

□ テキストの作成; 冊子を作成し配布、Webでも公開

さまざまな臨床検体のデジタルスライドをサーバーに保存

テキストとはQRコードでリンクし、自宅で顕微鏡観察の実習ができるようにした♪

## 2) 検体採取実習

総合診療内科CC-Step-I (火曜日午後[隔週]に実施)

□ 手指衛生法、PPE着脱実習、モデル用いた検体採取実習



山本亮太君は理学院S医科大学医学部に合格し、2017年の4月から1年生としての新生活を始めました。親元を離れ、初めての一人暮らしで生活環境が変わって大変だったが、友達も出来てようやく新生活にも慣れてきた。

クラブは高校でもやっていたテニス部に入った。日中は講義に出発し、夜はテニスの練習、先輩との食事会など、充実した医学部の学生生活を大いに楽しんでいた。

オリエンテーションの際、たまたま隣に座った内田君と目が合った。内田君は、さきほどと同じように、昼食、夕食などをともにすることが多くある日、内田君が欠席したので、携帯電話で連絡を取った。内田君は1週間前から「風邪ひいたか」とうにしていたのだが、さらにひどくなってしま...

Q1. 内田君の【病的な出来事】と考えられること

Q2. 同じような症状になっ

Q3. このような症状が起こる

Q1で挙げられたそれぞ

れを踏まえて、以下の

を用いて調べてみよう。

スマホやネットで「症

埼玉医科大学病院における  
新型コロナウイルスへの取り組み

大学病院 感染対策室 編集

COVID-19流行下での大学の役割



# 教育プログラム3

1年生選択必修 地域医学・医療学入門  
(県内8地域の8市町の地域診断)

課外学習プログラム

地域への愛を持って  
埼玉県の地域医療に  
貢献する人材

**毛呂山町の強み・魅力**

1. 埼玉医科大学とその大学病院がある

毛呂山町には埼玉医科大学と埼玉医科大学病院がある。  
→毛呂山町だけでなく、埼玉県全体の健康増進に貢献

人口10万人あたりの医師数  
全国平均 253.66人  
毛呂山町 1459.03人  
大きく上回っている。

2. 若者の人口比率が大きい

毛呂山町 (2022年)      日本 (2022年)

**地域診断に取り組んで気づいたこと・学んだこと**

- 人口や地理的条件、風習などその土地にまつ様々なことについて知らないとその町の魅力や課題は見えこないと学んだ。
- 将来地域で働く医師、社会人として地域について知ることは必要な事だと感じた。

毛呂山町の文化

毛呂山町の文化の歴史

毛呂山町の文化の歴史

交通

文部科学省「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業」  
埼玉・群馬の健康と医療を支える未来医療人の育成

令和5年度課外学習プログラム

**埼玉の医療 夏季病院見学**

文部科学省「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業」  
埼玉・群馬の健康と医療を支える未来医療人の育成

令和5年度課外学習プログラム

**利根川プログラム 病院見学バスツアー**

参加費：埼玉医科大学定額 11500円(埼玉医科大学定額)と別乗費用(車、バス代)を要する。  
乗車期間内：詳細は下記の通りです。

埼玉医科大学に申しこみ、確認まで1ヶ月程度かかります。送金振込が所定です。

①日程  
A - 8/14(日) 大学→赤松山立命堂病院→埼玉→伊勢崎市立病院→大学  
B - 8/14(日) 大学→埼玉医科大学病院→埼玉→群馬大学病院→大学  
C - 8/22(日) 大学→天竺記念病院→群馬→群馬大学病院→大学

②参加：8/20(土)9時以下の利根川へバスで、お申し込みください。  
詳細は「利根川プログラム」のパンフレットを参照してください。

連絡先： 令和5年7月22日(土)

問い合わせ先：埼玉医科大学教育課事務局  
埼玉県利根川の健康と医療を支える未来医療人の養成事業事務局  
担当：吉原、成嶋  
TEL: 049-276-1109 FAX: 049-276-2029  
E-mail: support@med.tus.ac.jp

2年生選択必修  
総合診療とプライマリケア

月日	曜日	時間	講師名	内容
9月4日	月	4.5 限	総合診療 プライマリケア	プライマリ・ケアとその特徴
9月25日	月	4.5 限	総合診療 プライマリケア	プライマリ・ケアと総合診療・家庭医療
10月23日	月	4.5 限	総合診療 プライマリケア	総合診療・家庭医療の理念・使命と必要な資質と体系的アプローチ
10月30日	月	4.5 限	総合診療 プライマリケア	遠隔医療の医療地域差の解消
11月6日	月	4.5 限	総合診療 プライマリケア	患者中心医療 生物心理社会モデル
11月27日	月	4.5 限	総合診療 プライマリケア	多病態併存 (multimorbidity) と慢性疾患管理
12月4日	月	4.5 限	総合診療 プライマリケア	高齢者医療 包括的予防医療
12月11日	月	4.5 限	総合診療 プライマリケア	総合診療における研究 海外のプライマリ・ケア
12月18日	月	4.5 限	総合診療 プライマリケア	総合診療・家庭医療実践とキャリア

# 教育プログラム4

はじめて学ぶ地域医療

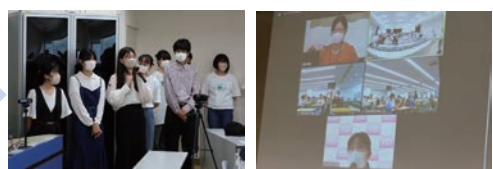
住民の視点に立ち  
「地域を知る」

1年次の教養教育科目：  
埼玉・群馬の県境地域の医師不足について、多様な視点からの考えを共有

埼玉・群馬はどのような地域なのか、学生自身が調査



講義：未来を語ろう！      地域診断：グループワーク



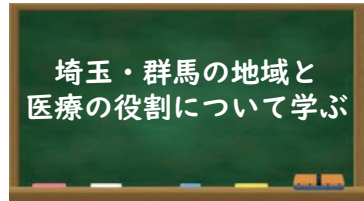
地域診断：グループ発表      埼玉医大との合同講義

学部	履修登録者数
医学科	11
保健学科	37
理工学部	11
共同教育学部	7
情報学部	0
合計	66名

埼玉医科大学・群馬大学合同のオンライン講義・発表・ディスカッション

# 教育プログラム5

## 県境地域から学ぶ地域医療集中演習 利根川プログラム



### ①事前学習（オンライン合同学習）

### ②バスツアー（合同実習）

日程	コース名	コース内容	群馬大学	埼玉医科大学	合計人数
8月14日	みらい1	東松山市立市民病院-伊勢崎市民病院	1	1	2
8月15日	みらい2	公立藤岡総合病院-小鹿野中央病院	3	1	4
8月16日	みらい3	済生会加須病院-公立館林厚生病院	1	3	4
8月17日	みらい4	埼玉県立循環器・呼吸器病センター	3	1	4
8月21日	みらい5	公立藤岡総合病院-秩父市立病院	0	1	1
8月22日	みらい6	太田記念病院-深谷赤十字病院	2	1	3
参加者		述べ人数	10	8	18



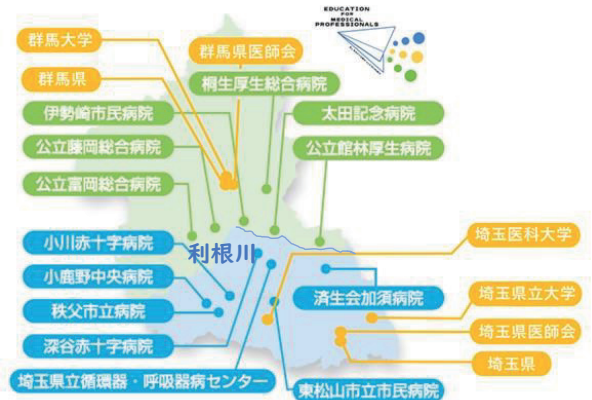
公立館林厚生病院



埼玉県立循環器・呼吸器病センター



伊勢崎市民病院



### ③病院実習（各自で参加）

### ④振り返り学習（オンライン合同学習）

## 教育プログラムの共同開講に向けた検討



埼玉医科大学



国立大学法人  
群馬大学  
GUNMA UNIVERSITY

教育プログラム1：地域医療とチーム医療

教育プログラム4：はじめて学ぶ地域医療

#### 目標の共有

少子高齢化や医療費増大、人口減少社会を迎える地域社会・医療の課題を解決するために必要な基本的な知識、技能、態度、価値観を身につけることを通して、将来地域・社会で役に立つ医師になるための素養を育む。

#### 遠隔授業

- ・Zoom利用 ・映像教材のオンデマンド視聴
- ・講義時間の確保：埼玉医大65分2コマ/群馬大学90分1コマ

別ユニット（地域卒学生、選択必修）での学習発表

実務経験のある教員によるオムニバス形式の講義

教育プログラム3：課外学習プログラム  
利根川プログラム

教育プログラム5：県境地域から学ぶ地域医療集中演習  
利根川プログラム

#### 合同での見学実習

- ・埼玉/群馬の県境地域での実習 ・実習時期の検討：夏季・春季休業を活用
- ・教職員同行のバスツアー

#### 遠隔授業

- ・事前学習及び振り返り学習 ・Zoom利用

# 連携体制の構築と拠点構築のための取り組み

## 教育環境の整備

## 情報発信 FD.SD

埼玉・群馬の健康と医療を支える  
未来医療人の育成事業  
物品貸借に関する説明会  
2023年10月31日(対面、Zoom併用)  
連携医療機関8人、学内10人参加  
学生実習用PC、シミュレータ貸与の契約



## ニュースレター3号、4号発刊



# 連携体制の構築と点検評価体制

## 運営体制

構成員：各機関の代表  
年1回開催

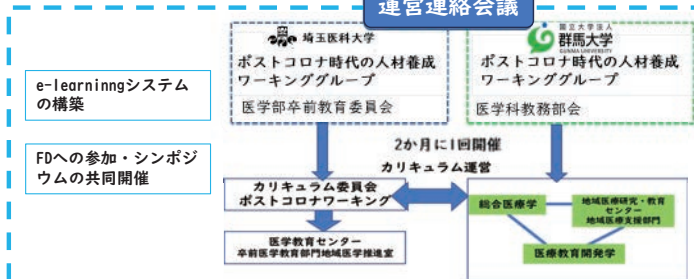
### 埼玉・群馬未来医療人育成連携推進会議

埼玉医科大学	群馬大学	秩父市立病院	小川赤十字病院
埼玉県	群馬県	深谷赤十字病院	済生会加須病院
埼玉県医師会	群馬県医師会	東松山市立市民病院	小鹿野中央病院
埼玉県立大学		県立循環器・呼吸器病センター	公立富岡総合病院
		伊勢崎市民病院	桐生厚生総合病院
		公立館林厚生病院	太田記念病院

- 地域枠/地域医療枠学生の支援
- 実習受け入れ施設の調整
- 映像教材作成の協力

- 利根川プログラム
- 課外プログラムへの協力
- 病院見学(埼玉医大)
- 埼玉の医療学習会(埼玉医大)
- 実習の受け入れ

### 運営連絡会議



- 外部評価委員会委員構成
- ① 医師不足地域市長
  - ② 医師不足地域病院長
  - ③ 卒業生
  - ④ 患者代表
  - ⑤ 学識経験者

- <評価方法>
- 自己評価
  - 外部評価委員への説明
  - 外部評価委員個別評価
  - 評価委員会による評価
  - 連携会議への報告



【メモ欄】

EDUCATION  
FOR  
MEDICAL  
PROFESSIONALS





令和4年度文部科学省ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業選定（令和4年度～10年度、7年間）

## 埼玉・群馬の健康と医療を支える 未来医療人の育成 Newsletter

第3号

■ 発行 埼玉医科大学／群馬大学 Saitama Medical University / GUNMA UNIVERSITY

### 「埼玉・群馬の健康と医療を支える未来医療人の育成事業」連携推進会議 およびシンポジウムを開催

#### ■ 第2回連携推進会議



令和5年3月30日に、令和4年度「埼玉・群馬の健康と医療を支える未来医療人の育成事業」のシンポジウムに先立ち第2回連携推進会議がかわごえクリニックに於いて開催されました。まず、連携推進会議の出席者が紹介され、その後、事業推進大学代表校の埼玉医科大学別所正美学長及び連携校である群馬大学石崎泰樹学長からのご挨拶をいただきました。そして、事業の連携推進会議メンバーに対し、事業について令和4年度の報告を、埼玉、群馬側からそれぞれ説明し、質疑を行いました。引き続き、埼玉・群馬未来医療人育成外部評価委員会の設置に関して、そして令和5年度の事業計画の説明がなされ、各々質疑応答を交え

ながら連携推進会議メンバーと事業主務者として討議が行われました。本格的な事業活動が既に開始され、連携校、県医師会、行政、並びに連携医療機関が一堂に会して進捗及び今後の計画を確認する大変有意義な場となりました。加えて、埼玉県及び群馬県の地域医療を将来担う未来医療人の本格的な育成が始まり、大いに期待できる取り組みに関係各署の一層の協力体制推進にも役立つ場となったと思います。

#### ■ 埼玉・群馬未来医療人育成シンポジウム ～地域で学び地域を学ぶ、地域医療の志の育成～

埼玉医科大学かわごえクリニックにて対面とLive配信の両方の形式でシンポジウムが開催されました。本事業を象徴するロゴ最優秀者の表彰に始まり、長崎大学前田隆浩教授による「地域医療教育と暮らしを支える遠隔医療」の特別講演、埼玉医科大学と群馬大学双方の実務者から事業概要、教育プログラムの紹介、連携体制と今後といった内容をお届けいたしました。事業関係者はもとより、埼玉・群馬両県への案内にて、興味のある高校生や学校教諭にも参加いただき、本事業を多くの方に知っていただくための良い機会となったと思います。



### 本プロジェクトで大切にしていること vol.3

埼玉医科大学副医学部長 事業推進プロジェクトサブリーダー 林 健

#### 医学教育は大学では完結できないことの認識 — 地域医療機関の先生方に感謝 —



私たち医師は「今、ここ」の医療ニーズを意識し、そのニーズに応えることに多くのエフォートを充てています。そのため、若い医師にも「今、ここ」で実力を発揮できるようになることを期待し、そして教育していると思います。たとえ自分を越える実力を期待するとしても、それは親クマが自分より強いクマになるべく子に狩りを教えるようなものかも知れません。

ただ、地域枠医学生は「今、ここ」ではなく「20年後、地域」で実力を発揮できるようにならねばなりません。医学も医療環境も20年後には大きく変わっているでしょう。活躍する場も、大学ではなく地域医療機関である可能性が高いと思われます。先ほどの例で言えば、地域枠医学生が活躍する場合は、生まれ育った森の中ではなくサバンナかも知れません。そのためには、優秀なクマになるための教育ではなく、強いライオンなるべく教育されるべきでしょう。少なくとも、サバンナでの経験は不可欠です。

大学には豊富な人的資源や恵まれた教育環境がありますので、医学教育は大学医学部を中心に行われるべきです。ただ、将来的な活躍の場と同じような場で、現にそこで活躍している医師に教えてもらうことは、何より大切です。先ほどの例で言えば、森でクマに教えてもらうだけではなく、サバンナで本当のライオンに教えてもらう経験が不可欠です。

本プロジェクトでは、今までにないほど地域医療機関の先生方にご協力をいただいています。地域医療ニーズに応えるべく日々本当に忙しくしていることは重々承知しております。そのような中、かなりのご負担だと思います。そのことに思いを巡らせ、恩返ししていくマインドを維持することを、何より大切にしたいと思います。

## 令和5年度開講のプログラム紹介（埼玉医科大学）

### プログラム1：地域医療とチーム医療1（群馬大学との合同実施）

埼玉医科大学 医学教育センター 助教 金田 光平

本プログラムは群馬大学の「はじめて学ぶ地域医療」との合同実施で、埼玉医科大学と群馬大学の教室をZoomで繋ぎ、実施しています。1回目は「かしこく健康に生きる」をテーマに、群馬パース大学教授、群馬大学名誉教授 田村 遵一先生、2回目は「ヒューマンケアを基盤とした人の暮らしを支える専門職連携」をテーマに、埼玉医科大学医学部医学教育学教授 柴崎 智美先生が講義されました。受講者は埼玉医科大学医学部1年生と群馬大学は3学部の1年生の計200名弱で、Zoom越しではありましたが、両者が互いに手を振りあうなど暖かい交流の場面も見られました。

講義は多領域の学生と一緒に受講して理解できるよう工夫されており、学生はメモを取りながら真剣に聴講していました。また、質疑応答では双方の大学から質問することもあり、活発な議論が行われました。合同実施はあと2回予定されており、それぞれ地域・地域医療の課題についてグループワークを行い、その成果をお互いに発表し、理解を深める場となることを期待しています。



### プログラム3：地域医学・医療学入門

埼玉医科大学 医学教育センター 准教授 井上 直子



本プログラムは、1・2年生の選択・必修科目で、埼玉県の地域枠入学生と地域医療に関心のある学生が参加しています。

プログラムの目標は、「地域に愛着を持つためのひとつの方法として、地域を深く理解するための手法である地域診断のスキルを体験する。」です。

地域におけるひとの暮らしに関心を持ち、実際の地域でおこっていることについて統計資料や地区踏査を通して、地域の課題を自ら考えられることを目指しています。埼玉県内の様々な自治体を調査し、将来、医師として様々な保健・医療・福祉の課題に立ち向かう実地臨床家や厚生行政で活躍する医師となる礎を学んでいきます。

さらに、演習では秩父地域で活動する医師からの具体的な活動の講義を受けました。学生にとっては、とても新鮮で、自分たちの将来の夢を描けた時間となりました。これからも、医師として地域を理解することの意味をお互いに学びあって行きます。

## 事業概要紹介動画を公開しました

事業概要の動画をホームページに公開いたしました。約12分の動画となりますので、ぜひご視聴いただき、当事業へのご理解・ご関心を深めて頂けると幸いです。



・動画ページ <https://sgmirai.jp/report/idx06.html>

※パソコンからの視聴を推奨いたします。

## 令和5年度 シンポジウムのお知らせ

令和6年

2月29日(木)

会場：レイボックホール

(さいたま市民会館おおみや)

※ウェビナー併用予定

※詳細が決まりましたら、ホームページでお知らせ致します。



埼玉・群馬の健康と医療を支える未来医療人の育成 Newsletter 第3号

編集・発行：埼玉・群馬の健康と医療を支える未来医療人の育成事業事務局  
住所：〒350-0495 埼玉県入間郡毛呂山町毛呂本郷38  
TEL：049-276-1109  
発行日：2023年06月  
E-mail：sgmirai-smu@saitama-med.ac.jp  
URL：https://sgmirai.jp

無断転載禁止







令和4年度文部科学省ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業選定（令和4年度～10年度、7年間）

## 埼玉・群馬の健康と医療を支える 未来医療人の育成 Newsletter

■ 発行 埼玉医科大学／群馬大学 Saitama Medical University / GUNMA UNIVERSITY

第4号

### 本プロジェクトで大切にしていること vol.4

群馬大学大学院医学系研究科 副研究科長 事業推進プロジェクトサブリーダー 小山 徹也

#### ■新しい時代に即した埼玉・群馬の医療体制の充実に貢献します

埼玉医科大学・群馬大学医学部は地理的には近い位置にありながらも、経営母体や学校の歴史が大きく異なり、これまで別々の道を歩んできました。しかし近年、それぞれの大学、学部は創立50年、80年を迎えて、埼玉県・群馬県出身者が互いの大学を卒業したり、大学教員になることが多くなりました。加えて我が国の少子高齢化は深刻になり、医師過剰を含めた医療体制の変化という大きなうねりの中で、今後2030～40年に向けた新しい医療体制の構築、特に医師偏在、診療科偏在が大きな問題となっています。例えば埼玉県・群馬県の県境地域は（熊谷 深谷 本庄 藤岡 太田 館林など）最も医師が必要とされている地域です。このたび、埼玉医科大学を主体として、埼玉県、群馬県及び両県の医師会の協力を得て、未来医療人育成事業がスタートしました。坂東太郎と言われる日本で最も広い川の流域にすばらしい協力体制ができました。



本事業には5つのプログラムがあります。群馬大学では、特に地域医療学入門（はじめて学ぶ地域医療）と県境地域から学ぶ地域医療集中演習（利根川プログラム）を担当しています。前者ではすでに本年度授業が終わり、アンケートを見ますと医学科以外では、保健学科の学生の参加が多く、理工学部、共同教育学部からも参加がありました。ミニレポートでは、それぞれの立場で地域医療に新たな発見があったと好意的評価でした。利根川プログラムでは病院見学が主体ですが、必修プログラムでないこともあり、参加者がまだ不十分と言えます。特に地域枠（地域医療枠）学生さんの積極的参加を期待します。

### 令和5年度開講のプログラム紹介（群馬大学）

#### プログラム4：はじめて学ぶ地域医療

群馬大学大学院医学系研究科 総合医療学講座 総合医療学分野 教授 小和瀬 桂子

#### ■住民の視点に立ち「地域を知る」

群馬大学の1年生を対象とした「はじめて学ぶ地域医療」は、埼玉医科大学の「地域医療とチーム医療」との合同実施となっております。総合診療、救急、感染症、周産期医療、地域保健などを中心に、医療行政とのかかわりや地域での課題を学び考えると同時に、「群馬県や埼玉県はどのような地域なのか」を学生自身が調べ、互いに学びあう授業を展開しております。群馬大学が総合大学である強みを生かし、医学生だけではなく保健学科生、共同教育学部生、理工学部生、情報学部生も履修可能とすることで、入学後の早期から地域医療に関する多様な考えを学ぶ機会を提供しております。グループワークでは、班ごとに群馬県の10の二次医療圏を担当し、市町村の特徴を調べて地域の課題を考えました。群馬大学と埼玉医科大学をオンラインで結んで行った発表と質疑応答では活発な意見交換が行われ、白熱して時間が足りない程でした。

7月に前期の授業が終了いたしました。アンケートでの自由記載で「群馬だけでなく、埼玉のことも知る良い機会となりました。」「将来医療に直接的に関わらない人との意見交換ができたので、自分が医療現場に出た際に、とても参考にできるのではないかと思います。」「地域医療という言葉だけで重く感じてしまい、実際はどのような問題があるか、どう解決していくべきかを考えたことがありませんでしたが、自ら地域を調べる経験ができたり、先生方が分野別に地域医療について教えてくださったりしたので自分に近いものとして捉えられるようになりました。」といった意見が聞かれました。



グループワークと講義風景

## プログラム 5：県境地域から学ぶ地域医療集中演習（利根川プログラム）

群馬大学医学部附属病院 地域医療研究・教育センター 講師 羽鳥 麗子

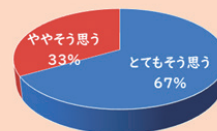
### ■埼玉・群馬の地域と医療の役割について学ぶ

令和5年度の夏、埼玉・群馬の県境地域の医療情勢について学習する「利根川プログラム」を新規開講し、埼玉医科大学学生8名、群馬大学医学科学生10名が履修しました。地域や住民の視点に立ち、両県の県境地域で抱える医療的課題について、両大学合同で学習しました。県境地域の関連医療機関を見学するバスツアーでは、小鹿野中央病院、済生会加須病院、埼玉県立循環器・呼吸器病センター、深谷赤十字病院（以上、埼玉県）、伊勢崎市民病院、公立藤岡総合病院、公立館林厚生病院、太田記念病院（以上、群馬県）の9つの医療機関に協力病院として御指導いただきました。

両大学の学生が、都市部の総合病院や山間部の急性期病院等、地域の病院で臨地実習に参加し、両大学合同で実施した振り返り学習（9月21日（木）、30日（土））では、「地域での学習」、「医師としての使命感」、「地域を担う医療」について、オンライン講義を行い、地域医療に関する活発な発言が聞かれました。海外からの移住者が多い地域での、「医療者としてのコミュニケーション」について、言語や文化の理解が必要であること、タブレットでの遠隔操作による翻訳の活用、他者に対するリスペクトなど、医療に関連した多岐にわたる課題について議論することができました。

履修生振り返りアンケートより

利根川プログラムの参加を、知人や後輩に勧めたいと思いますか



とてもそう思う ややそう思う どちらともいえない  
あまりそう思わない まったくそう思わない



### 本事業のポスターが完成しました

本事業をPRするポスターが出来ました。ホームページ (<https://sgmirai.jp>) からダウンロードしてPRをお願いいたします。



### 令和5年度 シンポジウムのお知らせ

#### 埼玉・群馬の健康と医療を支える 未来医療人の育成シンポジウム

総合的に患者・生活者をもみる—地域・人生・プライマリケア—

令和6年2月29日（木）13:30～16:00（予定）

会場：レイボックホール 7階小ホール（市民会館おおみや）

埼玉県さいたま市大宮区大門町2-118 大宮駅東口徒歩3分  
※参加費無料 ウェビナー使用ハイブリッド型開催

第1部：特別講演

「総合診療の動向（仮）」

講師 筑波大学地域医療教育学 教授 前野哲博氏  
（筑波大学附属病院 副病院長・総合診療科科长）

第2部：未来医療人の育成プログラム紹介

埼玉医科大学・群馬大学学生および教員によるプログラム振り返り

※プログラム等の詳細が決まりましたら、ホームページでお知らせいたします。

### 埼玉・群馬の健康と医療を支える未来医療人の育成 Newsletter 第4号

編集・発行：埼玉・群馬の健康と医療を支える未来医療人の育成事業事務局  
住所：〒350-0495 埼玉県入間郡毛呂山町毛呂本郷38  
TEL：049-276-1109  
発行日：2023年11月  
E-mail：sgmirai-smu@saitama-med.ac.jp  
URL：https://sgmirai.jp



無断転載禁止

# 埼玉県医師育成奨学金

埼玉県では、県に愛着があり「将来医師として埼玉県の地域医療に貢献したい」という強い意志を持つ医学生に奨学金を貸与しています。

## 奨学金のポイント

貸与期間の1.5倍の期間、特定地域の公的医療機関又は特定診療科等に医師として勤務した場合、奨学金の返還を免除

特定地域の公的医療機関（令和5年3月1日現在）  
 県立循環器・呼吸器病センター、秩父市立病院、東松山市立市民病院、  
 深谷赤十字病院、済生会加須病院、小川赤十字病院、  
 国民健康保険町立小鹿野中央病院

特定診療科等  
 埼玉県内の病院の産科、小児科、救命救急センター

## 貸与額

月額20万円（東京医科歯科大学は15万円）

## 募集人数

47名 ※令和6年度入学者募集例

埼玉医科大学	19名	北里大学	2名
順天堂大学	10名	東京医科大学	2名
日本医科大学	2名	東京医科歯科大学	5名
日本大学	5名	獨協医科大学	2名



埼玉県マスコット「コバトン」

詳細及び最新の情報については、各大学もしくは下記担当までお問い合わせください。

問合せ先

■埼玉県 保健医療部 医療人材課 048-601-4600

## 群馬県緊急医師確保修学資金制度 (群馬大学医学部医学科地域医療枠)

群馬県での将来の医療を担うという強い意思を持ち、群馬大学医学部医学科に地域医療枠として進学する学生に対し、群馬県では修学資金を貸与しています

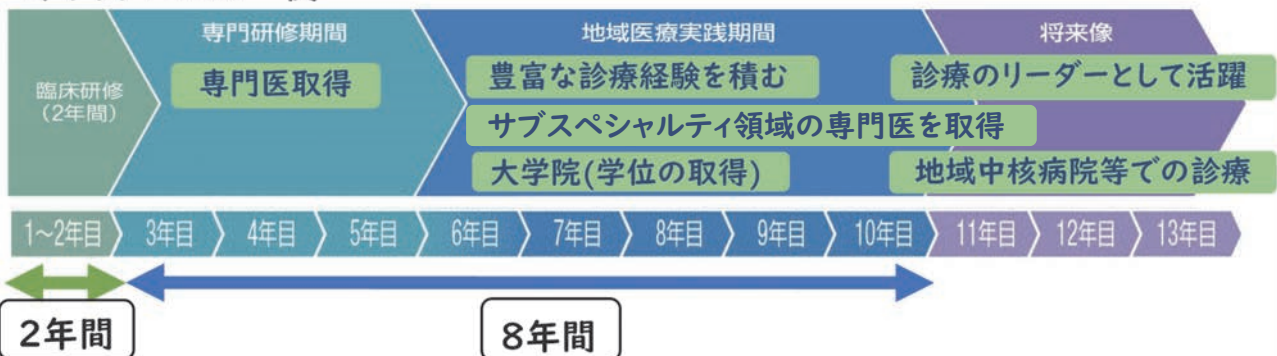
返還免除要件:

- ・卒業後、県内の特定病院で10年間診療業務に従事  
臨床研修修了後、8年間のうち4年間以上は、いずれかの地域・診療科に勤務  
「医師不足地域」の特定病院 前橋を除く9保健医療圏  
「特に不足する診療科」小児科、産婦人科、麻酔科、救急科、外科、整形外科、総合診療科
- ・「ぐんま地域医療リーダー養成キャリアパス」への参加  
(「医師不足地域」と「特に不足する診療科」は令和5年4月現在のものです。)



キャリアパスの一例

群馬県緊急医師確保修学資金制度



## 群馬県地域医療支援センター

群馬県地域医療支援センターでは医学生のカリヤ形成をサポートしています

- ・地域医療枠学生情報交換会の開催
- ・地域医療体験セミナー/臨床研修病院等見学バスツアーの開催
- ・専任医師によるキャリア相談



高校生向けの事業も行っています

- ・医学部医学科を目指す高校生のための職場体験セミナー
- ・高校生Gドクターズ特設サイトにて情報発信

群馬県地域医療支援センター



将来、地元で活躍する医師になりたい!



高校生Gドクターズ

---

文部科学省「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業」選定  
「埼玉・群馬の健康と医療を支える未来医療人の育成」事業

令和5年度 埼玉・群馬未来医療人育成シンポジウム 抄録集

発行日：2024年2月29日

企画・発行：埼玉・群馬の健康と医療を支える未来医療人の育成事業事務局

住所：〒350-0495 埼玉県入間郡毛呂山町毛呂本郷38

電話：埼玉医科大学(学務課) 049-276-1109

E-mail：sgmirai-smu@saitama-med.ac.jp

---

○お問い合わせ先：  
埼玉・群馬の健康と医療を支える未来医療人の育成事業事務局  
sgmirai-smu@saitama-med.ac.jp  
埼玉医科大学(学務課) 049-276-1109

○主催： 埼玉・群馬の健康と医療を支える未来医療人の育成事業事務局

